# 令和４年度　学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、（　）はR04中間評価、〈　〉はR03最終評価のデータ

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 GIGAスクール構想の下、教職員はICT活用スキル向上に努め、生徒の教育活動における個別最適化を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。 | ① GIGAスクール構想の実現に向けた教職員の研修をとおして、ICT活用指導力の向上を図る。 | 副校長<br>教頭 | 研修や授業をとおして、個々の生徒の学習状況に応じたICT活用指導力が昨年度よりも向上したと考える教員の割合が<br>Ａ　８０％以上<br>Ｂ　７０％以上<br>Ｃ　６０％以上<br>Ｄ　６０％未満 | ８２．７％　Ａ<br>（83.0％　Ａ）　〈97.0％　Ａ〉<br><br>ａ　よく当てはまる　３４．６％<br>（３０．２％）〈２９．４％〉<br>ｂ　やや当てはまる　４８．１％<br>（５２．８％）〈６７．６％〉<br>□ | 達成度判断基準を「個々の生徒の学習状況に応じたICT活用指導力」と変更（今年度は下線部追加）し、教員の活用指導力の向上を目指したところ、「よく当てはまる」ポイントが、昨年度および前期（７月）を４ポイント以上上回った。今年度は各教科の推進リーダーを中心に、外部講師等を招いた研修会等を行うなど、教科の特性に応じた活用力を養った。今後も各教科で必要な研修を企画し、効果的な活用方法の習得に努めていきたい。 |
| | ② 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。 | 副校長<br>教頭 | 時間外勤務が８０時間を超える教職員の月平均の人数が<br>Ａ　０人<br>Ｂ　１人未満<br>Ｃ　２人未満<br>Ｄ　２人以上 | 月平均４．８人　Ｄ<br>〈 3.1人　Ｃ 〉<br><br>（単位：人）4月5月6月7月8月9月10月11月12月　平均<br>80時間以上 10 8 5 4 1 7 5 3 0 4.8<br>うち100時間以上 5 2 0 3 1 2 2 1 0 1.8<br>〈昨年80時間以上 6 6 6 3 1 3 7 5 1 3.1〉 | 部活動制限が緩和されたこともあり、時間外勤務が1.7ポイント増加した。今年度、定時退校日を毎月２回設定・実行し、教員の意識改革に努め、平日においては若干退校時間が早まっているように感じるが、時間外勤務が月80時間超、月100時間超の教員も一定数いる。今後も授業や校務、部活動指導における教育の質を確保しつつ、ICTの活用をはじめとした業務改善や業務の偏りの是正、教員の意識改革により、過重な労働とならないよう取り組みを進めていきたい。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・コロナ禍にあっても、生徒の学力保障の為のオンライン授業での対応はとてもありがたい。先生方の日頃からの努力に感謝したい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・生徒の要望に出来るだけ添えるよう、教員がICT機器を効果的に使用できるようにしたい。また、オンライン環境が日によって配信状態が悪いこともあるため、今後は環境整備に努めたい。 |

# 令和４年度　学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、（　）はR04中間評価、〈　〉はR03最終評価のデータ

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題） |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 書くことを基本とし、生徒自身が考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を鍛え、課題発見・解決能力を身に付けられるようにする。その際、教職員は主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。 | ① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業に導入するとともに、ICT機器を活用し授業力の向上を図る。 | 教務課<br>各教科 | アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにICT機器を活用することにより学習効果が高まった（a 強く ＋ b やや）と感じている生徒が、<br>Ａ　８０％以上<br>Ｂ　７０％以上<br>Ｃ　６０％以上<br>Ｄ　６０％未満 | ８５．３％　Ａ<br>【a:34.9　b:50.4】<br>(84.3%　A)　(a:33.8　b:50.5)<br>〈79.5%　B〉　〈a:27.5　b:52.1〉 | 「感じている」＋「やや感じている」が昨年度最終評価より5.8ポイント、中間評価より1.0ポイント上回った。これはアクティブ・ラーニングやディスカッションについて、その技法や内容面を改善してきた結果と考えられる。日頃から授業手法や成果の共有を行い、「思考する授業」を実践し、生徒が主体的能動的に取り組む授業を増やしてきた成果であると思われる。今後、更に学習効果が高まった感じることができる授業を実施していきたい。 |
| | ② 授業において、生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力が育まれる場面、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を設定する。 | 教務課<br>各教科 | 日々の授業において、教師が論理的に答えさせる質問をし、生徒が教師や生徒同士と意見交換する場面を（a多く＋ｂ時々）設定している割合が<br>Ａ　９５％以上<br>Ｂ　９０％以上<br>Ｃ　８０％以上<br>Ｄ　８０％未満 | ６４．０％　Ｄ<br>【a:30.0　b:34.0】<br>(76.5%　D)　(a:25.5　b:51.0)<br>※今年度質問内容変更<br>〈80.6%　C〉 | 昨年度の質問内容「考える必要のある質問」「生徒が発表する場面」を「論理的に答えさせる質問」「教師や生徒同士と意見交換する場面」と変更したので、昨年度との単純比較はできないが、「ａ＋ｂ」が16.6ポイントも下回り、Ｄ評価だった。中間評価からも8ポイント以上下がり、生徒との意見交換をする中で深い学びを実現する重要性があまり浸透しなかったと言える。次年度は再度、取り組み設定の意図を説明し、教師全員で共通理解を図り、授業において試行錯誤する中で、実現できた事例を教師間で共有し、授業改善を図っていきたい。 |
| | ③ 授業内容と家庭学習の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。 | 教務課<br>各教科 | 家庭学習に積極的に取り組み、十分に確保できたと考えている生徒が、<br>Ａ　９０％以上<br>Ｂ　７５％以上<br>Ｃ　６０％以上<br>Ｄ　６０％未満 | ６０．２％　Ｃ<br>【a:16.1　b:44.1】<br>(59.7%　D)　(a:12.1　b:47.6)<br>〈66.8%　C〉　〈a:17.7　b:49.1〉 | 「十分である」＋「やや」が中間評価より0.5ポイント上がったが、昨年度最終評価より6.6ポイント下げる結果となった。中間評価と比較すると、2年生は11.2ポイント増加しているが、1年生が16.2ポイントも減少している。1年生は入学後の半年間、良い意味での緊張感から家庭学習に取り組んでいたが、悪い意味での慣れが影響していると思われる。逆に2年生は自分の進路について真剣に考えるようになった結果と思われる。今後は学年団、進路課とも連携を図り、自発的に家庭学習に取り組む習慣を確立させていきたい。 |
| | ④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。 | 各学年 | 朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が<br>Ａ　８０％以上<br>Ｂ　７０％以上<br>Ｃ　６０％以上<br>Ｄ　６０％未満 | 【１年】　７９．１％　Ｂ<br>〈80.7%　A〉<br>【２年】　７９．３％　Ｂ<br>〈80.4%　A〉<br>【３年】　８０．３％　Ａ<br>〈82.8%　A〉<br>【全体】　７９．６％　Ｂ<br>〈80.3%　B〉 | 【１年】　生徒は落ち着いた様子で朝学習に取り組んでいる。過回比較で約２％減少している。年間を通して週３日、国数英の基礎・基本を身につける内容に取り組んでいる。今年度から残りの２日は言語能力と社会課題を多角的に捉える力の育成を図ってきた。後半からは学習支援ツールを活用し英語力の向上に取り組んでいる。取り組む内容を精選し、適切な場面で生徒にとって有意義なものになるように指導していきたい。<br>【２年】　２学期から文系・理系で一部科目を変えており、昼食時や放課後の再テストや学習会と連動させることを１学期から継続して行っている。担任のみならず、学年全体としての声かけもあり、この時間を有効活用しようと心掛ける生徒も増えている。しかし、課題や学習に対して受動的な生徒もまだ多いので、より積極的、自発的な取り組みを促したい。<br>【３年】　英語は英文速読とリスニング演習、他の教科は小テストを中心に朝学習を行った。今年度は不合格者の再テストは行わず、生徒の能動的・自発的な取り組みを促した。今年度中間評価に比べポイントは下がったが、肯定的な回答が多いのは、学習支援ツールを利用し、生徒の個別最適な学びに対応できたところもあったと感じている。ただ、再テストや解説会がなかったことで、下位層の生徒に対する手当てができたかどうか疑問ではあるが、その時間を担任は面談等に費やすことができた。３年で自発的な学びをさせるためにも、１・２年での取り組み方が大事であると感じる。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・本校は潜在能力を秘めている生徒が多い学校であると認識しているが、生徒の可能性を高める取組はしっかり行われているのか。<br>・「探究」活動において「深い学び」は実現されているのか。また、「情報」について何か対策をとっているのか。 |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・「探究」の時間では、生徒自身が設定した課題についての意見交換を行う場面が多くあるものの、今後もそのような活動を積極的に取り入れ、深い学びにつなげていきたい。<br>・「情報」の担当教諭は、豊富な知識と技術があり、生徒達は恵まれた環境下で学習に励んでいる。１年生で学んだことをいかに３年生まで残せるかが課題であり、大学の動向を注視していきたい。<br>・また、今年度はタブレット用学習ソフトを試みており、生徒の個別最適化のための取組も検討を進めていく。 |

# 令和４年度　学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、（　）はR04中間評価、〈　〉はR03最終評価のデータ

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題） |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。 | ① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。 | 進路指導課<br>学年<br>教科 | 【１・２年】９月の進路志望調査で、国公立大学合格を目標とする生徒が<br>Ａ　９０％以上　　Ｂ　８５％以上<br>Ｃ　８０％以上　　Ｄ　７５％以上<br>【３年】９月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が<br>Ａ　７０人以上　　Ｂ　５０人以上<br>Ｃ　３０人以上　　Ｄ　３０人未満 | 【１年】８６．８％ Ｂ<br>〈87.0％ Ｂ〉<br><br>【２年】８６．４％ Ｂ<br>〈83.2％ Ｃ〉<br><br>【３年】４１名　　Ｃ<br>〈117名　Ａ〉 | 【１年】　１学期からの文理選択指導や進路講話等で早期の進路指導を行った。２年次になってもこの意識を保ちつつ、高みを目指す指導を継続していく。<br><br>【２年】　１年次より生徒の進路意識を高めてきたが、１年末に引き続き、２年末もＢ評価となった。今後も継続して高い志望を持たせる方向で指導を続けていきたい。<br><br>【３年】　進路選択の多様化もあり、金沢大学以上の難関大学を目標とする生徒数は減少したが、国公立大学を志望する生徒は70％を超えている。最後まであきらめずに目標を実現するよう指導を継続したい。 |
| | ② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。 | 進路指導課<br>学年<br>教科 | １，２年生の１１月実施の総合学力テストにおいて、国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が<br>Ａ　平均偏差値４８以上<br>Ｂ　平均偏差値４５以上<br>Ｃ　平均偏差値４２以上<br>Ｄ　平均偏差値４２未満 | 11月進研模試による。<br>【１年】国語46.2Ｂ〈47.0〉数学49.9Ａ〈46.2〉<br>英語45.3Ｂ〈44.4〉<br><br>【２年】国語47.0Ｂ〈47.5〉数学48.9Ａ〈47.3〉<br>英語45.4Ｂ〈45.5〉 | ３教科総合全校偏差値は、１年が47.0で、昨年度、一昨年度よりも高い。２年の３教科総合偏差値は理系が46.3、文系が44.8であり、昨年度、一昨年度と比較して、理系は高く、文系は低い。<br>１，２年とも成績上位者層の人数は維持されており、これまで以上に学習に対する意識を高め、成績上位者が増えていくように継続して指導していきたい。 |
| | | | １、２年生の１１月実施の総合学力テストにおいて、国語、数学、英語の３教科総合の全国偏差値５４以上の生徒が<br>Ａ　４５人以上<br>Ｂ　４０人以上<br>Ｃ　３５人以上<br>Ｄ　３５人未満 | 全国偏差値５４以上の生徒<br>【１年】<br>19名：Ｄ〈14名：Ｄ〉<br>【２年】<br>31名：Ｄ〈25名：Ｄ〉 | 教科別偏差値54以上の生徒は、１年生が国語で35名、数学で60名、英語で18名となっている。２年生においても、同様に国語で35名、数学で70名、英語で16名であり，３教科とも成績が上位の生徒が少ないことが言える。今後、生徒個人の特性に応じた指導を行っていく必要がある。 |
| | | | 金沢大学以上の国公立大学合格者数が<br>Ａ　１０人以上<br>Ｂ　　８人以上<br>Ｃ　　５人以上<br>Ｄ　　５人未満 | ４人　Ｄ<br>〈5人：Ｃ〉 | 東京大学１、金沢大学２、千葉大学１（過年度卒）<br>10年ぶりに東京大学現役合格者を出すことができた。２年次中頃からの個別指導が功を奏した。全体としては、進路希望の多様化の中で、高みを目指し、最後まで努力する大切さを指導していく必要がある。 |
| | | | 国公立大学合格者数が<br>Ａ　７０人以上<br>Ｂ　６５人以上<br>Ｃ　５５人以上<br>Ｄ　５０人以上 | ５９人　Ｃ<br>〈81人：Ａ〉 | 国公立大学合格者は、推薦合格者10名、前期試験合格者33名、その他16名で計59名であった。進路希望の多様化が進んでいる中で、国公立大学の魅力や目指す意味を考えさせ、５教科に対応できるよう基礎基本の指導を徹底していく必要がある。 |
| | | | 難関私立大学合格者数が<br>Ａ　１０人以上<br>Ｂ　　７人以上<br>Ｃ　　５人以上<br>Ｄ　　５人未満 | ９人　Ｂ<br>〈4人：Ｄ〉 | 青山学院大学１、東京理科大学１、関西大学４（過年度卒）、同志社大学１、立命館大学２、計９名であった。成績上位層が難関私立大学を受験したこと、過年度卒の生徒が合格したことによるものであった。今年度は文Ⅱコースからも難関私立大学を目指す生徒が見られた。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・進路希望調査は、１年生にとってあまり現実味がないと思われる。インターンシップなどを積極的に活用し、就職を踏まえた大学選びにつなげるのが良い。 |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・コロナ禍で校外や企業側の実習等があまり行えなかったが、生徒の視野を広げる取組として、今年度は多くの同窓生に講演を依頼した。次年度はインターンシップなどを積極的に活用するとともに、活躍する地元企業との連携を図るなど、生徒の手持ちカードを増やしたい。 |

# 令和４年度　学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、（　）はR04中間評価、〈　〉はR03最終評価のデータ

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題） |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。 | ① 保護者にＰＴＡ活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。 | 総務課 | 学校行事やＰＴＡ活動で保護者が来校した・または職員とのやりとりを電話などでした回数の平均が３回以上の割合が<br>Ａ　７０％以上<br>Ｂ　６０％以上<br>Ｃ　５０％以上<br>Ｄ　５０％未満 | ４４．９％　Ｄ<br>【3年 49.7%　2年 34.6%　1年 48.0%】<br>４月より、来校または職員とのやりとりした回数が<br>５回以上　３年 19.5%　２年　8.8%　１年 18.2%<br>４回　３年　8.6%　２年　5.7%　１年 10.8%<br>３回　３年 21.6%　２年 20.1%　１年 19.0%<br>２回以下　３年 50.3%　２年 65.4%　１年 51.9% | ５月のＰＴＡ総会は昨年に続き中止となったが、少しずつコロナ以前のように行事を開催したり、保護者が来校できる機会を提供できている。３回以上来校・やりとりをした保護者の割合は４４．９％で、昨年の２６．７％から１８．２ポイントの増（割合にすれば６８％増）と、保護者と学校の連絡が増えてはいる。<br>いくつかの機会に、大事をとって来校を控えてくださる方もおられ、できるだけ学校の様子をお知らせしたいとオンラインを併用した行事もある。今後もご意見を伺いながら、学校の様子を見聞きしてもらい、保護者・地域とともに生徒を支える学校づくりを維持したい。 |
| | ② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。 | 総務課 | ホームページ上のアクセス数が月間平均で<br>Ａ　30,000以上<br>Ｂ　25,000以上<br>Ｃ　20,000以上<br>Ｄ　20,000未満 | 月平均　３７，１４０　Ａ<br>ホームページのアクセス数月間平均（抜粋）<br>４～７月平均　３９，６３７<br>８・９月平均　３７，２９６<br>10・11月平均　３５，９５５<br>12月　２９，２１０　（単位　件数） | 毎月ホームページに月間行事予定を掲載しているが、同時に学校メールでも配信しているのでホームページを見る手間を減らしている面はある。また、保護者から情報が乏しいとの声があることから、今年度は毎日何らかの更新ができるよう学校で工夫しているが、どのような情報が必要なのか学校評価で具体的な要望をいただければさらに改善を工夫したい。 |
| | ③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。 | 生徒課 | １，２年生の部活動の加入率が<br>Ａ　９０％以上<br>Ｂ　８５％以上<br>Ｃ　８３％以上<br>Ｄ　８３％未満 | ９１．２％　Ａ<br>（93.1％　Ａ）〈93.8％：Ａ〉<br>１年生　９８．９％（99.6％）〈96.7％〉<br>２年生　８８．２％（85.2％）〈88.7％〉 | １・２年生全体の加入率があまり減少しなかったのは、コロナの影響で中止していた県総体・総文等の公式大会が、以前のように開催されたことによる活動意欲が高まったことが理由として考えられる。１年生は全員が何らかの部活動に加入することから、部活動の活性化は喜ばしいことである。しかし、設備以上の多人数が入部している部活動もあり、充分な活動ができていない課題がある。 |
| | ④ 生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう推進する。 | 生徒課 | 委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒の割合が<br>Ａ　９５％以上<br>Ｂ　８５％以上<br>Ｃ　７５％以上<br>Ｄ　７５％未満 | ６１．６％　Ｄ<br>※今年度新規目標<br>ａ　よく当てはまる　２１．５％<br>ｂ　やや当てはまる　４０．１％ | 今年度新規の目標であり、「ａ＋ｂ」はＤ評価だった。各委員会の担当の教員や生徒に委員会活動の大切さを理解してもらうとともに、積極的に地域行事に取り組ませていきたい。 |
| | ⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示など地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神と主体性の涵養を図る。外に出る機会は制限されるが、可能な範囲で活動する。 | 図書課 | 地域と連携した図書委員会活動の回数が<br>Ａ　年間８回以上<br>Ｂ　年間５～７回<br>Ｃ　年間４～５回<br>Ｄ　年間４回未満 | ７回　Ｂ〈５回　Ｃ〉<br>5月　書店に赴いての図書選定実習<br>6月　外部講師を招いてのビブリオトーク<br>7月　外部講師を招いての読み聞かせ研修<br>保育所訪問読み聞かせ会<br>10月　外部講師を招いてのポップ研修<br>12月　野々市図書館カレード訪問見学<br>2月　カレード館長によるビブリオバトル講話 | 野々市図書館（カレード）との関係を密にして、カレードから講習会に講師としてお招きしたり、生徒がカレードを訪問したりと地域の図書館との連携が深まった。また、コロナの影響で、２年間実施できなかった保育所訪問も実施できた。その他、地域の書店のご協力を得ての講習会や、外部講師をお招きしての研修会など充実した活動ができた。来年度は保育所訪問を２回できるよう、十分な連携をはかりたい。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・将来、地域に貢献する人材になるための意識付けはとても重要である。 |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・外部講師等の話を聞く取組を積極的に行いながら、生徒のモチベーションをあげるよう努めたい。 |

# 令和４年度　学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、（　）はR04中間評価、〈　〉はR03最終評価のデータ

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題） |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。 | ① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。 | 生徒課<br>各学年 | 朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた生徒が<br>Ａ　８０％以上<br>Ｂ　７０％以上<br>Ｃ　６０％以上<br>Ｄ　６０％未満 | ８２．２％　Ａ<br>（80.7％　Ａ）〈80.8％　Ａ〉<br>a よく当てはまる　２８．５％（31.9％）<br>b やや当てはまる　５３．７％（52.4％） | コロナ禍の感染防止のため常時マスクを着用し、声を出す機会が減った中、昨年度より「当てはまる」の割合が高くなっている。しかし、教員アンケートの同じ質問項目の回答では「当てはまる」の割合はそれほど高くないので、授業の開始時・終了時の挨拶からさらに前向きに取り組むよう努めていきたい。 |
| | ② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。 | 生徒課<br>各学年 | 制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が<br>Ａ　９０％以上<br>Ｂ　８０％以上<br>Ｃ　７０％以上<br>Ｄ　７０％未満 | ９３．３％　Ａ<br>（92.6％　Ａ）　〈96.0％　Ａ〉<br>本校の服装・容儀に関する規定を守っている生徒の割合が<br>a よく当てはまる　６２．９％（63.9％）<br>b やや当てはまる　３４．３％（28.7％） | 本校制服着用の際のブレザーやシャツ等の組み合わせを、生徒に書面で明示したことにより、しっかり着用できていると感じる。ただ、制服の着こなし方について、教員から様々な意見もあり、今後共通認識をもって指導できるよう努めていきたい。 |
| | ③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。 | 生徒課<br>各学年 | 交通ルール（自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない）を遵守している生徒が<br>Ａ　９８％以上<br>Ｂ　９５％以上<br>Ｃ　９０％以上<br>Ｄ　９０％未満 | ９３．３％　Ｃ<br>〈96.0％：Ａ〉<br>※昨年度は９０％以上がＡ評価<br>a　よく当てはまる　６２．４％〈６９．２％〉<br>b　やや当てはまる　３０．９％〈２７．９％〉 | 自転車事故報告数は、昨年度１６件から１３件と減少した。今年度、交通ルールは必ず守るものであること、交通ルール違反は命に関わる大きな問題であることを意識させるため、達成度基準の値を変更したが、意識は低いように思われる。自分だけでなく他者の命を守るためにも交通ルールの遵守について継続して指導していきたい。 |
| | ④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。 | 生徒課<br>各学年 | ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が<br>Ａ　７０％以上<br>Ｂ　６０％以上<br>Ｃ　５０％以上<br>Ｄ　５０％未満 | ５５．１％　Ｃ<br>（59.5％　Ｃ）〈昨年度未実施〉<br>a　良く当てはまる　１８．５％（22.1％）<br>b　やや当てはまる　３６．６％（37.4％） | 近年実施できていなかった中央公園周辺の清掃ボランティアや今年度３年ぶりに再開された野々市じょんからマラソンコースの清掃の参加部活動を募ったところ多くの参加希望があった。残念ながら雨天中止となってしまったが、今後も学校が企画するボランティア活動等をきっかけとして、社会貢献への意識が高まるよう計画していきたい。 |
| | ⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。 | 相談室<br>各学年 | 学校生活が楽しいと感じる生徒が<br>Ａ　９０％以上<br>Ｂ　８０％以上<br>Ｃ　７０％以上<br>Ｄ　７０％未満 | ８５．５％　Ｂ<br>（88.4％　Ｂ）〈86.4％：Ｂ〉<br>【1年】Ａ46.5％＋Ｂ43.1％＝89.6％（90.2％）<br>【2年】Ａ42.3％＋Ｂ44.5％＝86.8％（87.1％）<br>【3年】Ａ40.3％＋Ｂ39.9％＝80.2％（87.5％） | 全ての学年で中間評価より減少している。３年が7ポイント下がっているのは進路の問題に直面している時期の調査であり当然とも思われる。学校に居場所がある、学校生活に何らかの充実感を感じていることが学習意欲につながる。「居て安心な場所」と生徒が感じられるような雰囲気作りを大切にしていく。 |
| | ⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。 | 相談室<br>生徒課<br>各学年 | いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたのアンケートをとり、あてはまるの割合が、<br>Ａ　９５％以上<br>Ｂ　９０％以上<br>Ｃ　８０％以上<br>Ｄ　８０％未満 | ８６．６％　Ｃ<br>（94.2％Ｂ）〈87.9％Ｃ〉<br>Ａ30.8％＋Ｂ55.8％＝86.6％ | 教員アンケート⑫本校のいじめ対策はＡ＋Ｂ92.3％Ｂ、⑬本校の心のケア対応Ａ＋Ｂ92.3％Ｂという結果と合わせるて考えると、学校としては良いが、個人として満足できていない教職員が多いためＣ評価となったと考えられる。また、中間評価と比較して10ポイント近く下がったのは２学期からの急な不登校や人間関係の問題が多かったためだと思われる。今後、教員と生徒との信頼関係づくりをあらためて重視していくことが必要である。 |

# 令和４年度　学校経営計画に対する最終評価

集計結果で、（　）はR04中間評価、〈　〉はR03最終評価のデータ

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題） |
|---|---|---|---|---|---|
| | ⑦<br>定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。 | 保健環境課 | 環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が<br>Ａ　８０％以上<br>Ｂ　７０％以上<br>Ｃ　６０％以上<br>Ｄ　６０％未満 | ９０．０％　Ａ<br>（91.8％：Ａ）※今年度新規目標<br>日々の清掃活動を積極的に行っている。<br>１年　９０．７％　（９２．８％）<br>２年　８６．８％　（８９．３％）<br>３年　９２．４％　（９３．２％） | アンケートの回答項目・良くあてはまる。・やや当てはまる。の合計が、全学年ともに少し減少している。しかし、全く当てはまらないと答えた生徒（１年０．４％　２年０．９％　３年１．７％　全学年１％）は少なく、清掃を真面目に取り組んでいると考えられる。より一層、生徒が環境美化意識を高め、愛校心をもって取り組めるように、清掃活動を生徒と共にする教職員が模範となる姿勢を見せられるよう協力をお願いしていく。 |
| | ⑧<br>図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。 | 図書課 | 本校図書館及び「ののいちカレード」を利用した生徒一人あたりの年平均貸出冊数が<br>Ａ　１０冊以上<br>Ｂ　　８冊以上<br>Ｃ　　６冊以上<br>Ｄ　　６冊未満 | 一人あたり２．１冊　Ｄ<br>（12月現在、カレードの貸し出し数を含まない）<br>４月～１２月末現在貸出　１９４６冊<br>１年生　１１０４冊<br>２年生　　５０５冊<br>３年生　　３３７冊 | 「ののいちカレード」の会員カードを全学年対象に作成したが、カレードの本校生徒のみの貸し出し冊数は公開されていない。カレード側からは、今年度全体の貸し出し冊数が増加したという報告のみ受けている。<br>本校図書館の貸し出し冊数のみを見ても、達成度は低い。図書館のリニューアルをきっかけに、展示や企画などを工夫することで、来館者を増やし、本を手に取る習慣を付けさせたい。 |

| | |
|---|---|
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・相談にのってくれる人の項目において、かなり高い数字となっているのはとても良いことである。<br>・最近、取り上げられることが多いヤングケアラーの問題にも敏感になって欲しい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・「野々市プロジェクト」「MGP明倫グローカルプロジェクト」などの総合的な探究の時間をはじめ、生徒には対外的な活動や取組への参加を通して、色々な視点で物事を捉えたり考えたりしてほしい。社会の激しい変化に柔軟に対応し、主体的に行動できる人材の育成に向けて、積極的に教育活動に取り組んでいきたい。 |